

第3回幹事会概要（人材育成）

（前回の幹事会での意見を反映させ整理した表を作成し、資料（資料4-1）として提出。資料をもとに説明を行なった。）

■木造住宅・建築物の担い手育成 教科概要 MAP について

○基礎自主啓発プログラムの目的

- ・ 実際的に大工減少している中、大学や工業高校に行っても木造を教えてもらえる機会がほとんどない、あるいは実際に今世の中に出ている技術者、設計者が木材のことを知らないという現状にある。技術を知らないで実際に木造に携わっているような環境におかれているというようなことを改善し、技術者の質を何とか底上げしていきたいというのが目的。
- ・ 基礎編あるいは、その上の部分を基礎自主啓発プログラムとして自分で学んで頂くようなものにしていきたい。
- ・ 新しい制度化をおこして、上・中・下に仕分けしていくとか、1級建築士、2級建築士、木造建築士のような制度をつくっていくというのではなく、あくまでも木造に関わる人々が、自主的に自分で自分のいる位置を確認していくためのプログラムづくりを目的とする。

○前回 MAP からの改善点および MAP の見方

- ・ 対象とする担い手は木造建築なのか、木造住宅なのかということが前回の議論に上った点を踏まえ、大規模木造にもつながる面から「木造住宅・建築物の担い手育成」とした。
- ・ 基礎、中級、上級というような分け方ではなく、基礎編、技術者、中堅技術者に変更し、大学や専門学校等を卒業した技術者を対象とした基礎自主啓発プログラムという意味合いをもたせた。
- ・ 以前の MAP は大工のコースとか設計士のコースとか木造技術者のコース、という形で書いてあったが、大工が設計を学んでもよいし、木造の技術者が設計を学んでもいいという意味から、今回の MAP は設計系と生産系などいろいろな方向性があることを表現し、自分で選択できるという意味合いを込めた MAP とした。
- ・ 本来他の分類に包括される「リフォーム」「環境」「伝統木造」の3つのコースを、今の状況として特に学ぶべきものとして、特出しで挙げている。
- ・ 文化、教養および建築一般（まちづくり、建築倫理、建築生産技術 等）といったものも、当然必要な項目であるが、あくまでも木造として必要な教科概要を扱うということで、この担い手育成のマップの枠の中からはあえて省いた。